

平成28年度 第1回 研究評価委員会

開催日時

平成28年9月13日（火）13～17時

中間評価対象課題と評価結果

課題名	進捗状況	得られた成果	目標達成の可能性	課題の取扱い	合計
(1) 乳牛のルーメン健全性を保持する自給飼料多給発酵TMRの給与技術の開発 (H27～29 大家畜研究課)	4.0	4.0	4.3	4.3	16.5

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

・ 県内飼料用米生産面積が増加しているなか、酪農家経営安定を継続するために有用である。

課題名	進捗状況	得られた成果	目標達成の可能性	課題の取扱い	合計
(2) めす優良肥育和牛を活用した県内産優良和牛還元モデルの開発 (H27～29 家畜改良繁殖研究課)	4.0	4.5	4.3	4.3	17.0

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

・ 体外胚の重要度がわかった。
・ 全国でも増加していることを背景に説明があればわかりやすかった。

事前評価対象課題と評価結果

課題名	必要緊急性	新規独創性	達成の可能性	期待される効果	合計
(3) 飼料米を利用したリキッドフィーディング給与技術 (H29～31 中小家畜研究課)	3.8	3.5	3.5	4.8	15.5

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

・ 県内での普及性はどうか。
・ 資源循環型のプラットフォームを明確にする。

課題名	必要緊急性	新規独創性	達成の可能性	期待される効果	合計
(4) 機能性成分向上による地鶏肉の高付加価値化生産技術の構築 (H29～31 中小家畜研究課)	4.0	3.8	4.0	4.3	16.0

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- 調理方法や部位別利用など宣伝方法を検討。
- プロに対するアピールではなく、意識の高い消費者へアピールを強化したほうがよい。
- 消費者目線が大事。